

令和5年度 小平市立小平第三中学校 学校評価報告書

学校教育目標 ○健康「ゆたかな心 たくましいからだ」 ○実践「進んで学び、積極性を養う」 ○協力「ひとりではみんなのために みんなはひとりのために」

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 ●(生徒)安心して自己実現ができる学校 ●(保護者)信頼でき協力したくなる学校 ●(教職員)チームとして力を生かし、主体的に課題を解決できる学校 ●(地域)内外に開かれ地域とともに歩む学校
 【目指す生徒像】 ●生きる力をもつ生徒 ○心身を鍛錬し、自分の責任を果たすことのできる生徒(自分を考える力) ○自分の個性を伸ばし豊かに表現できる生徒(学習を考える力)○思いやりのある生徒(人を考える力)
 【目指す教員像】 ●生徒を慈しみ、良さを伸ばす。●日々研鑽に努める。●教育公務員としての使命と自覚をもち、服務規律に勤める。●保護者・地域の信頼にこたえる。●人の手本となることを銘肝し、教訓とする。

前年度までの学校経営上の成果と課題

教育活動アンケートで「楽しく学校に通えている」と肯定的に回答した生徒は85%であった。保護者教育活動アンケートで、肯定的回答は79%であった。概ね学校の教育活動にに対して肯定的に捉えてもらっている。課題としては、効率よく教え込む授業スタイルが主となった。協働的な学びの推進が必要である。学習者用端末の授業や他の取り組みでの更なる活用も課題である。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	・全教科での統一した授業形態(3中スタンダード)の実施。 ・英語で指導方法改善授業を実施、1年生の数学では チームティーチングを実施し個別指導の充実を図り、学力 の底上げをする。	3	2	・3中スタンダードの実施の為、各教室の環境整備を を行い、ホワイトボードの設置を行った。また、個々 の授業の振り返りのため授業チェックシートを用い 自己点検を行っている。そのような取り組みから教員 の意識の高まりもあり実施状況がよくなっている。 ・英語、数学の授業は予定通り実施がでている。	4	3	・生徒たちは落ち着いた状態で授業を受けている。 ・授業ではICT機器(学習者用端末、大型モニター) の利用などさまざまな工夫が見られる。生徒の興味・ 関心を引き出せるよう考えられている。生徒たちが学 習の内容をどのように理解をし、その知識などが浸透し ていくか楽しみである。	・生徒による各教員の授業評価は肯定的な回答が80% 以上を占めた。また、教育活動に関するアンケートで は肯定的な回答をした生徒が83%と保護者は68%で あった。保護者の理解を深めるべく授業や取り組みの 公開場を増やすなど検討していく。 ・授業での学習者用端末の効果的な使用、家庭学習な どの学習支援の充実などに課題がある。スタンダード の実施を進め、学習に使えアプリの導入をすすめる。
	・教員のICTを活用能力を上げることを目指し、校内 研修会において学習者用端末を用いた授業を学期1回 実施するとともに一人1回以上授業を公開する。 ・研究発表会などへ参加を推奨し内容を校内で共有 する。	3	2	・情報担当、研修担当が中心となり学習者用端末の 効果的な使用方法の紹介、外部講師によるミライシ ードの使用方法などの研修会を実施した。 ・アンケート調査(教育活動、生徒会での活動他)で のICT機器の活用による効果的な処理ができた。	3	3	・ICT機器の活用による授業づくりは生徒にとって興 味・関心を高め、授業への取り組み方など意欲的な 面、理解の促進の面など効果があった。 ・ミライシードの活用などの研修を適宜実施するこ とができ、その活用による授業作りが進んでいる。 しかし、市の導入がロイロノートになり、新たな学 び直しが必要となった。また、リモート学習に関 してその対象者、実施方法などが課題としてあげら れる。	
健全育成	・生徒専門委員会を支援し、生徒の主体的な取組み を大切にしながら落ち着いた学習環境と生活環境を整 備する。 ・生徒の発想を引き出し、生徒会・委員会活動を促 進させる。 また、指導者による指示を段階的に少なくし、生徒 の自主性を高める。	3	3	・生徒へのアンケートの実施、生徒会役員選挙で の議案書の提示、投票など学習者用端末を活用が進 み、効率化が図れた。 ・各専門委員会での生徒が企画した取組が行われ、 学校生活が活性化することができた。	3	3	・生徒会や専門委員会の取り組みが良い。生徒が主 体的に活動ができている。 ・あいさつをすることを大切にしており、あいさつ が自然に交わされる状態が素敵である。 ・部活動などで生徒の頑張っている様子がみられ る。 ・生活アンケートの活用が図られ、いじめや問題行 動に対する対応ができています。	・委員会などでの話し合いを通し、委員会での行事 (ドッジボール大会)や取り組み(あいさつ運動、ノー チャイン運動、落葉掃き)などが行われ、生活環境 が豊かなものとなっている。 ・生徒たち自ら生活の課題や良き人間関係づくり、 SDGsに関する取り組みなどを考え進めていけるよう 今後も働きかけを行っていく。 ・生徒の自己評価で85%が肯定的であった。
	・月に1回アンケートを実施し、生徒の状況把握し、 複層的な視点で生徒の心情を把握するとともに指導 に活用する。 ・生活指導部の組織力を高め、いじめや問題行動の 情報収集と支援について共通理解を図り、早期対応 、早期解決を目指す。 ・道徳の心情を育む取り組みの実施	4	4	・生活アンケートを月に1回実施することができ ている。また、繰り返し実施することで生徒も書き やすい状態となり、早期にいじめや困り事の防止 や解消につなげることができている。 また、週に一度の生徒指導部にて情報共有が図 られ、組織的な対応が行えた。 ・道徳の授業では学年内にローテーション道徳 の実施など多様な内容での授業が実施できた。	4	4	・生活アンケートは効果が大きい。相談窓口の一 つとして機能しており、全体での対応に役立っ ている。生徒の生活の安定につなげることができ る。今後も実施をしていく。 ・道徳地授業地区公開講座では「思いやり・感謝」 をテーマに全校にて共に考える機会が作れた。今 後も自分や他を大切にでき、自己有用感、肯定感 を高めることのできるよう学校全体の活動の中 で進めていく。	
キャリア教育	・ボランティア活動や地域行事への参加、地域での 清掃活動の実施など地域で活躍できる生徒の育成 を図るとともに、自己の将来を描くことのできる よう、生きる力を高める取組を実施する。 ・地域の人材、地域の力の活用を図り講演会など を実施する。 (生き方講演会、職場体験、職業調べ、上級学校 訪問、道徳、体験授業など)	3	3	・1年生では職業調べ学習を実施、働くことの 意義など理解を深めることができた。2年生では 4年ぶりに多くの事業所にご協力をいただき、通 常形式での職場体験学習を実施することができた。 生徒たちにとって貴重な体験となった。3年生 では自己の進路選択に向け、講演会などを通し て高校での学習や生活、入試の内容の理解を進め た。 ・さわやかコミュニケーションで予定されてい た地域清掃を予定していた日を感染症のため延期 になった音楽祭の代替え日としたため中止とな った。校内で実施できる代替えを考えていく。	4	4	・2年生による職場体験の発表会、1年生による 職業調べ発表会などその取組から生徒たちがよ り深く職業や働くことに関心をもち取り組んで いることが分かった。発表の中で、体験先への 感謝を述べるなど人との関わり合いの中で働く ということを学習していることが良かった。 ・特別支援級の生徒と行事を通しての交流、そ して啓発授業の実施など良い取組ができてい る。	・教育活動に関するアンケート結果でキャリア教育 に関する項目において肯定的な回答は、生徒84% 、保護者71%であった。生徒たちは様々な取組 みを通して、自身の将来について考える機会を もてた。考える。保護者側にもさらなる理解を すすめていきたい。また、今後、職業講話、上 級学校訪問やその内容を進める理解の場、面接 練習や論文作成講座など取り組みを充実させ ていきたい。
特別支援教育	・運動会や音楽祭などの行事を通し、交流を深 める。特別支援学級の教員による出前授業を通 し、障がい者理解を深める。 ・通常の学級と特別支援学級の相互の関わりを 深める。	4	4	・運動会のオレンジ団へ8組(特別支援学級) が加入し、行事を共に実施することができた。 ・特別支援学級の教員により2年生にて特別 支援の生徒理解に関する授業を実施した。今 後も継続していく。	4	4	・特別支援学級に対する理解度は啓発授業や交 流を通して大きく深まっている。今後も継続・ 発展させていきたい。また、そこから障がい者 理解を進めるため、パラリンピックススポ ーツの体験などにも広げていきたい。	
	・教員、生徒のとの関係づくりを重視すると ともに特別支援校内委員会では対応を検討す る。 ・スクールカウンセラーのやスクールソーシャル ワーカーの活用や外部関係機関との連携、訪 問活動により相談・支援体制を充実させる。	3	3	・校内委員会を毎週開催し、生徒の状況と 対応について情報交換を行うことができ ている。生徒の状況に合わせ様々なニーズに 応えていくことが課題である。生徒の困り感 に応じ、具体的な支援方法についての検討を 進める。	3	3	・生徒の状況にあわせた取り組みが行われ、校 内委員会の活用が進んでいると感じた。	・教育活動に関するアンケートにて「カウンセ ラーやソーシャルワーカーなどを通し、悩 み事や困り事に対して相談できる体制」に 関し肯定的な意見は生徒85%であった。良 い形で取り組みが行われている。さら に生徒から気軽に相談などのア プローチができるよう取り組んでいく。 また、不登校生徒への支援を 充実させていく。
業務改善・革新	・教員一人一人が時間を意識した働き方を 進め、過当たりの在校時間が60時間を超え ないことを目標とする。 ・会議の精査や学校行事の精選、ライフワー クバランスなどについて、自己申告書に具 体的な目標を示し、取り組む。 ・服務防止研修、チェックシートの実施。 ・年次有給休暇の取得目標を明示し積極 的な休暇取得を促す。	3	2	・会議開始時間、終了時間を厳守。出張 後には学校にもどることなく帰宅するこ とを推進した。概ね達成ができ ている。 ・毎月チェックシートによる個人 チェック、学期末における服 務研修の実施を行い服 務遵守に関する意識を 高めることができて いる。教員相互による注 意・声掛けなどを実施 していく。	3	3	・教職員の皆様の時間を惜しまない日々 の努力はたいへんありが たしい。しかし、働き 方改革が言われて る折、健康面に十分 に配慮をしてほ しい。	・週あたりの在校時間は職員全体の90%が平均 して60時間以内であった。分掌主任等の特定 の教員の勤務時間の超過の解消が課題であ る。 ・平均年休取得日数は15日以上となっている。 長期休業中などにさらに促進していく。 ・分掌主任などに業務集中を無くすなど業務 の効率化や分担を一層進める必要がある。事務 処理時間を設定するなど時間使用も検討し ていく。